

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新TODAビル計画 新築工事	階数	地上28F地下3F塔屋1F
建設地	東京都中央区	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	- 人
地域区分	6地域	年間使用時間	- 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年4月 予定	評価の実施日	-
敷地面積	6,147 m ²	作成者	-
建築面積	4,679 m ²	確認日	-
延床面積	94,813 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 6.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算

- 建設: 100%
- 修繕・更新・解体: 56%
- 運用: 56%
- オンサイト: 56%
- オフサイト: 56%

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.8
4(教育)	2.7
5(ジェンダー)	2.9
6(水・衛生)	2.8
7(エネルギー)	2.8
8(経済・雇用)	2.7
9(イノベーション)	2.9
11(都市)	2.8
12(生産・消費)	2.8
13(気候変動)	2.4
15(陸上資源)	2.9
17(実施手段)	2.9

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.8

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.1

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都中央区京橋に建設される複合用途ビルである。 地上レベルには京橋に開かれた広場とイベント、展示、販売のための共通ロビー、2階以上の低層階には物販、飲食店舗、イベントホール、ミュージアム、8階以上の高層階はオフィスの超高層複合ビルである。 	<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 照明自動制御により、室内の明るさや照明の制御性に配慮している。 十分な換気量を確保し、CO₂の常時監視を行う等、室内空気質環境を良好に保つための配慮をしている。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務室は、ゆとりある天井高、リフレッシュスペースの確保等により、快適性の向上に配慮している。 災害時の重要系統への電源供給や飲料水の確保等、災害時の各設備の機能維持について配慮をしている。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> LED照明等の高効率な設備機器を導入している。 主要な用途別にエネルギー消費量を把握・分析可能な計画とし、コミッションングの実施により、エネルギーの効率的な運用に配慮している。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 躯体と仕上材が容易に分別可能な構造とし、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 消火剤や発泡剤は汚染物質含有材料の使用を避けた計画としている。
	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。 排熱機器を上階に設置することで、温熱環境の向上に配慮している。 <p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 高効率な設備機器の導入により、CO₂排出量の低減を図り、地球温暖化へ配慮している。 十分なスペースの駐車・駐輪場を確保し、渋滞緩和に配慮した交通計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される